

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 16 日現在

機関番号：25407

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2013～2016

課題番号：25285217

研究課題名（和文）川平朝申のライフコースを基軸とした戦前から戦後沖縄の教育・文化実践史研究

研究課題名（英文）A study on the history of educational and cultural establishment from pre- to post-war Okinawa based on the life course of Choshin Kabira

研究代表者

齋木 喜美子 (SAIKI, Kimiko)

福山市立大学・教育学部・教授

研究者番号：30387633

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 10,100,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、戦前に日本統治下の台湾で沖縄学研究や文化・芸術活動を展開し、終戦後には米軍占領下の沖縄で文化行政官となった川平朝申（1908-1998）に着目した。川平のライフコースを基軸に、彼の戦前から戦後をつなぐ思想と実践の連続性と不連続性、戦後沖縄の教育・文化実践の実態や課題を明らかにした。

各研究メンバーがそれぞれの課題を研究成果報告書にまとめ、国立国会図書館はじめ県内外の関係機関に発送した。

研究成果の概要（英文）：This study focused on Choshin Kabira (1908-1998), who developed Okinawan studies as well as cultural and artistic activities in Taiwan under the Japanese rule before World War II. He also served as an administrative officer for cultural affairs during the U.S. occupation of Okinawa after World War II. This study was based on the life course of Choshin Kabira and clarified the continuity or the lack of regarding his philosophy and its application from before and after the war, as well as the situation and issues that existed in the implementation of education and culture in post-war Okinawa.

The members of the study each reported on their themes, which were summarized in research result reports and sent to relevant institutions within and outside of the prefecture, including the National Diet Library.

研究分野：教育学

キーワード：戦後沖縄 教育史 文化史 日本統治下台湾 川平朝申

1. 研究開始当初の背景

本研究を開始するに至ったのは、沖縄文化協会研究発表会(2012年7月、於：沖縄県立芸術大学)における複数の沖縄学研究者との出会いにあった。

研究代表者はこれまで近代以降の沖縄における児童文化・文学史研究を進めてきたが、その課題に取り組むうち、日本本土と沖縄との関わりだけでなく、戦前の日本統治下台湾と沖縄の文化交流史に関心を抱くようになった。なぜなら、台湾からの戦後引き揚げ者の中に石島英文、古藤実富、川平朝申といった文化人がおり、彼らが戦後沖縄の児童文化・文学の展開過程において果たした役割は決して小さいものではないと考えたからであった。

そこで、こうした問題意識に基づき調査・研究を進め、「台湾における川平朝申の児童文化・文学活動」というテーマで研究発表を行った。その際、研究代表者とは違う視点から川平朝申に着目し、戦後のラジオ放送や映画の復興、結核対策史に関する研究を進めていた研究者らに出会ったのであった。さらにその後、川平朝申関係の資料が那覇市歴史博物館に寄贈され、その整理と公開が進行中であるという情報を得た。

研究代表者はかねてより、一次資料散逸の著しい近現代沖縄史研究においては、当時の社会的機運の醸成や文化・教育政策推進に関わっていた人物史の解明を通して時代の思潮、教育・文化実践の実態を明らかにし、全体像を問い直す方法論は極めて有効ではないかと考えていた。そんな折に出会った研究者との情報交換は、研究代表者の着想を力強く後押ししてくれるものであった。

また、これを機に情報共有と討議を重ねるうちさらに人脈が広がり、教育史、社会教育学、美術教育学、アーカイブズ学、文化人類学等、複数の研究領域と多様な研究関心を持つ研究者らの協力を得ることができた。それぞれの研究関心をもとに、チームとして本研究課題に取り組むことで、より多角的・立体的に戦前から戦後をつなぐ沖縄の教育・文化の全体像が描けるのではないかと考えたことが、本研究に着手する背景となった。

2. 研究の目的

本研究の目的は、川平朝申(1908-1998)のライフコースを基軸に据え、その活動と思想の解明を通して戦前・戦中・戦後をつなぐ沖縄教育・文化実践の連続性と不連続性を明らかにすることである。

本研究で川平という一行政官の個人史に着目したのは、彼が戦後沖縄の文化行政官として沖縄のラジオ放送や映画、美術等の文化復興に尽力した人物だということだけでなく、その活動がそれだけにとどまらない幅をもっていたことによる。その一つが芸術分野のクリエイターでありプロデューサーでも

あった一面である。たとえば美術に関しては、戦前の沖縄県立第二中学校時代に、芸術グループ「樹緑会」の設立メンバーとしてのちの美術界をリードする芸術家たちと交流を持ち、絵画制作を始めている。渡台後は台北放送局で「日刊ラジオ新聞」の編集に関わり、日本総督府官房情報部に嘱託として在籍し、台湾文化政策を推進する立場にいた。また、川平は官報や商業雑誌等のメディアで、大人向けの詩を中心に作品を発表したほか、児童文学作品や児童劇脚本なども手掛けていた。さらに画家、文学者として活躍する一方、「銀の光子供樂園」を組織して児童文化活動を展開するなど、多彩な文化活動の足跡を残している。それだけではない。おもろや歴史学など沖縄学研究に取り組む一方、終戦後は台湾沖縄同郷会連合会メンバーとして郷土民の引き揚げや沖縄関係資料の保護に関わり、戦後沖縄図書館再建の礎を築く等、多方面で活躍していた。しかし、これまで戦前の川平の実践や資料は断片的にしかとらえられていなかったため、十分な整理と評価がなされて来なかったのである。

前段で述べたとおり、沖縄の近現代史研究においては資料の散逸や風化が日々進んでいるため、一個人の収集した資料は貴重で重要な意味を持つ。

そこで、本研究では個人の営みの中で資料の意味を読み解き、沖縄史を俯瞰してとらえつつ、領域横断的に課題解明を目指すこととした。

3. 研究の方法

各研究メンバーの研究関心に基づき、文献研究を中心に関係する研究機関や図書館等での資料調査、川平と関わりのあった人物へのインタビュー調査等を行った。調査の範囲は沖縄県立図書館、沖縄公文書館、琉球大学図書館、沖縄県立美術館等、県内を中心に県外や台湾に及んでいる。とりわけ、那覇市歴史博物館所蔵「川平家資料」を中心とした「川平朝申関係資料」調査は本研究において大変貴重な示唆を与えてくれるものとなった。

琉球士族の家柄に生まれ、近代化が急速に進んだ明治期から大正期に沖縄で育った少年が、長じて日本統治下の台湾で様々な文化活動を体験し、戦後は米軍統治下の沖縄で文化行政官となる。こうした川平の半生は、沖縄近現代史を読み解くうえで非常にユニークであり、興味深い事例であると言える。

そこで本研究では、川平朝申を主眼としつつも、終戦後の激動の時代において沖縄の知識人たちが戦前から戦後をどう生きたか、その生きざまが文化行政や文化実践、占領政策とどうかかわっていたのか、それが社会にどのような影響を与えたのかという点についても目配りし、各研究メンバーの課題と関連させつつ考察することとした。

4. 研究成果

本研究では、「川平朝申関係資料」の調査結果についてまとめ、今後の調査研究の指針を提示するとともに、台湾時代に川平が行った文化活動の実際、それらが戦後沖縄の美術や映画、子どもの文学にどう生かされたか等、戦後の沖縄文化に川平が果たした役割について具体的に明らかにした。

また文化行政官としてだけでなく、長く放送関係の仕事に携わってきた川平が、ラジオドラマの制作にどう関わってきたのか、あるいは戦後の八重山移民政策をどのように報道し、人々に何を伝えようとしていたのかという視点から、クリエイターとしての川平の評価、報道人としての立ち位置に関する試論を示した。さらに、川平が1954年から勤務していた琉球結核予防会での活動を通して、戦前から1950年代までの沖縄で行われた結核対策を概観した。ここでは川平の具体的な貢献だけでなく、米軍統治下における沖縄の結核対策の実情がいかなるものであったのか、戦前から戦後への継続と断絶の様相を明らかにした。

こうした研究成果によって、より多角的・立体的に戦前から戦後をつなぐ沖縄の教育・文化の全体像を描くことができたのではないかと考える。以上のことから、本研究の成果は大きく以下の3点にまとめることができる。

- (1) 那覇市歴史博物館所蔵の「川平家資料」をはじめとする沖縄近・現代資料への注目、資料の価値と活用の方途を発信したこと。また那覇市歴史博物館の「川平家資料」保管のために中性紙の保管用品を整える等、微力ながら貴重資料の保存に貢献できたこと。
- (2) 研究が個人史を扱いつつもそこに矮小化してしまうのではなく、川平朝申を定点としながら戦前～戦後の沖縄史の展開と課題を具体的かつ俯瞰的にとらえたこと。
- (3) 沖縄の近現代史を日本本土と沖縄、あるいはアメリカと沖縄の関係性から見るだけでなく、日本統治の台湾との人的、文化的交流史を背景として読み解いたこと。

前述したとおり、本研究にはさまざまな学問領域の研究者がそれぞれの問題関心から課題の解明に取り組んできた。研究期間内での研究成果は、それぞれの所属学会を中心に口頭発表と論文発表を行ってきた。最終的に4年間の取り組みを研究成果報告書(全193頁、一部をCDに収録して添付)にまとめて発行し、国立国会図書館はじめ沖縄県内外の研究機関や公共図書館、大学図書館等に発送し、研究成果を世に問うた。なお、研究成果報告書は部構成となっており、各部の章立てと執筆者は以下の通りである。

- | | |
|-------|---|
| 第 部 | 総論 |
| 第 1 章 | 「川平朝申関係資料」の史科学的位
置に関する覚書 - アーカイブ
学・史科学的考察のために -
(川島淳) |
| 第 2 章 | 川平朝申のライフコースとその時代
- 思想の形成過程と戦後沖縄文化
との関わり -
(齋木喜美子・喜久山悟) |
| 第 3 章 | 「沖縄的なもの」と川平朝申
(浅野誠) |
| 第 部 | 各論 |
| 第 1 章 | 川平朝申の児童文学・児童文化活動
(齋木喜美子) |
| 第 2 章 | 戦後沖縄における美術の成立と展開
過程 - 川平朝申との関わりを手が
かりに -
(齋木喜美子・喜久山悟) |
| 第 3 章 | 戦後沖縄の映画復興と川平朝申
(世良利和) |
| 第 4 章 | 沖縄結核史ノート - 琉球結核予防会
の川平朝申を起点にして -
(泉水英計) |
| 第 5 章 | 川平朝申が記録した八重山計画移民
- 「八重山雑記」に米軍統治下の報
道人を見る -
(松田良孝) |
| 第 6 章 | ラジオドラマと朝申 - 人びとの心を
はぐくむために
(三島わかな) |

こうした研究成果をまとめる過程で、各自がさらに研究課題を明確にすることができたと考える。また、本研究に取り組んだことで、川平に限らず戦後外地から引き揚げて来た人々の巻き起こした文化的攪拌作用が、決して小さなものではなかったことにも改めて気づかされた。

本研究が、沖縄戦後史を東アジアや南洋地域との交流史を含めた、グローバルな視点から考えていこうとする契機になったことは、本研究チームのメンバーにとって、とても大きな学びであり成果でもあった。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 7件)

齋木喜美子・喜久山悟「戦後沖縄における美術の成立と展開過程 - 川平朝申との関わりを手がかりに - 」『福山市立大学教育学部研究紀要』第5巻, 2017, pp.35 - 53, 査読有

DOI:http://doi.org/10.15096/fcu_education.05.04

三島わかな「ラジオドラマと音楽 - 川平朝申の脚本集を事例に - 」『ムーサ 沖縄県

立芸術大学音楽学研究誌』17号, 2016, pp.45 - 57, 査読無

齋木喜美子・喜久山悟「川平朝申のライフコースとその時代 - 思想の形成過程と戦後沖縄文化との関わり - 」『こうさく学』Vol.4. 2016, pp.13 - 29, 査読有

三島わかな「地域を巻き込む放送文化～台北放送局「子供の時間」の放送童話を中心に」『沖縄県立芸術大学紀要』第23巻, 2015, pp.51 - 67, 査読有

齋木喜美子・世良利和「川平朝申の文化活動に関する一考察(1) - 日本統治下台湾における映画との関わりを中心に - 」『福山市立大学教育学部研究紀要』第3巻, 2015, pp.29 - 38, 査読有

三島わかな「近代沖縄のラジオ放送に関する研究史概略 - これからの可能性 - 」『沖縄芸術の科学 沖縄県立芸術大学附属研究所紀要』第26巻, 2014, pp.85 - 101, 査読無

齋木喜美子「川平朝申の児童文化・児童文学 - 日本統治下の台湾を背景地とした沖縄児童文化・文学の潮流」『沖縄文化』第48巻1号, 2014, pp.40 - 59, 査読有

〔学会発表〕(計 1件)

1. 三島わかな「地域の音楽文化の発信をめぐって～熊本中央放送局の放送プログラムを対象に」東洋音楽学会, 2014.11.22～23日, 於・四天王寺大学(大阪府羽曳野市)

〔その他〕

ホームページ等

松田良孝「台湾体験を語る会」シンポジウム基調報告, 八重山台湾親善交流協会沖縄支部主催, 2014年1月18日, 於・沖縄県立博物館・美術館(沖縄県那覇市)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

齋木 喜美子(SAIKI, Kimiko)
(福山市立大学・教育学部・教授)
研究者番号: 30387633

(2) 研究分担者

・泉水 英計(SENSUI, Hidekazu)
(神奈川大学・経営学部・教授)
研究者番号: 20409973

・喜久山 悟(KIKUYAMA, Satoru)
(熊本大学・教育学部・教授)
研究者番号: 50273876

・三島 わかな(MISHIMA, Wakana)
(沖縄県立芸術大学・付置研究所研究員)
研究者番号: 60622579

・近藤 健一郎(KONDO, Kenichiro)
(北海道大学・教育学研究科・准教授)
研究者番号: 80291582

(3) 連携研究者

()

研究者番号:

(4) 研究協力者

・船寄 俊雄(FUNAKI, Toshio)
(神戸大学・人間発達環境学研究科・教授)

・浅野 誠(ASANO, Makoto)
(沖縄大学・客員教授)

・川島 淳(KAWASHIMA, Jun)
(沖縄国際大学南島文化研究所・特別研究員)

・世良 利和(SERA, Toshikazu)
(沖縄県立芸術大学附属研究所・共同研究員)

・松田 良孝(MATUDA, Yoshitaka)
(元・八重山毎日新聞記者)

・川島 祥子(KAWASHIMA, Shyoko)
(沖縄県立芸術大学附属図書館・芸術資料館専門員)